

後援会会報

東洋高等学校
後援会

千代田区三崎町1-4-16
TEL 3291-3824

後援会会長挨拶



後援会会長 大島 昭

東洋高等学校後援会の皆様には、日頃より後援会活動にご理解、ご支援をいただき誠に有難うございます。去る六月十六日には皆様のご協力のお蔭をもちまして平成三十年総会も無事に終了いたしましたこと、厚く御礼申し上げます。また、十月二十一日の東洋祭では今年も三燦会主催のバザーに協賛させていただき、現役の保護者の皆様とご一緒に和気藹々とした楽しい時間を過ごさせていただきました。私の好きな言葉に「和の繁栄」という言葉があります、これからも三燦会、後援会、学校がお互いに協力し、支え合っ

た。学校の中でもベテランの先生、中堅の先生、若手の先生がそれぞれの持ち味を生かし、和を大切に学校の教育方針である「学助高実」学び合い・助け合い・高め合いの実践」の成果が大いにあがるよう、遺憾なく力を発揮していただき、生徒の皆さんがこれからの必要とする学力、知力、体力、教養、常識等を十分に身につけ、生徒の皆さんのみならず、保護者の皆様にも東洋高校を選んでよかった、東洋高校で学んでよかったと満足していただける学校作りをしていただきたいと心から願う次第です。このような学校作りを応援し、生徒の皆さんや先生方を応援するのが後援会の役割です。これからも皆様方のご協力をいただきながら、微力ではありますが東洋高等学校発展のために後援活動を活発にしていまいりたいと存じます。

最後になりますが、会員の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。今後とも後援会活動に對しまして更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本来のコミュニケーションとは？

校長 石井 和彦



先日、校長室で市川教頭先生が生徒四名とクラブ活動の時間について話していた、その教頭先生の話の中で「この年齢になるとカウントダウンを考えると、やりたいことを数え上げて、そのうちいくつできるかなー、なんて」という一節がありました。そのことばを聞いて生徒以上にハツとしたのがこの私でした。あれもやりたい、これもやっておきたいと、ときおり思い浮かぶものの、そこには時間の観念がなく、人生で残された時間などという発想は若者以上に少ないことに気づき、自分のかつさに驚いたのでした(私は教頭先生より年上で、しかも不摂生な人生を送ってきました)。私ほどではないにしても、わが聡明な生徒たちもハツとしたようで、人生は有限なんだ、とか、時間を大切に使わなくちゃ、といった表情でその話を聞いていました。世間話などふだんのなげない会話

はともかくとして、コミュニケーションというのは本来、このようなものなのだなあ、とこの場面で考えました。このようなもの、というのは、あらためて講演を聴く、というほどではないにしろ、他人の意見を伺うということとは、その人の志向だの価値観だの人生経験だの品格だのが表れているはずで、話し手の人格を認めてその意を汲み取るべきではないか、ということですね。最近、コミュニケーションということばを、教育関係の資料の中でよく目にしますが、その文脈はややもすれば「コミュニケーション＝技術」という図式で語られることが多いように感じます。もちろん、語られた内容を正確に把握することは大切ですが、語られる内容は単独に存在するのではなく、語る人(の人生や生活等々)と切り離せないものであり、だからこそ心に響くことばがあったり人生に効く教訓があったりするのだと思います。本来のコミュニケーションというのは、会話の内容だけで成立するものではなく、基本は人と人との関係で、そこには相手を認め合うことが土台として必要だと痛感しています。